

# 被曝問題への無責任と開き直りを断じて許さない 常磐線全線開通絶対反対!

## 動労水戸

常磐線全線開通など  
絶対にあり得ない!

福島第一原発の事故は全く収束していません。政府や東電が責任逃れのために真実を隠し続けている結果、防げるはずの被曝が無防備に拡大しています。原発事故で3つの炉心が破壊され、線量が高すぎて誰も近づけないために、未だになつていないのか分かりません。調査ロボットも役に立ちませんでした。また、1〜3号機の大量の使用済み核燃料も全く手が付けられていません。核分裂が再燃する「再臨界」になれば、もとと凄まじい事故になります。現実はまだただ水で冷やし、汚染水を垂れ流すしかないのです。原発の再稼働などあり得ませんし、国道・高速道路に続いて常磐線を開通させる事など絶対に許してはなりません。

「この国の政治家や大企業は、戦争に国民を動員しながらその責任から逃げるだけでなく、平然と切り捨ててきました。戦争法案、非正規・「残業代ゼロ」法案と常磐線全線開通には、

全く同じ本質があります。福島島の切り捨てと沖縄や全国民を切り捨てる事は一体です。絶対に許してはなりません!

「甲状腺ガンは組合に言われてはじめて認識した」  
(水戸支社)

6月24日、動労水戸は常磐線全線開通問題をめぐって支社交渉を行いました。原発事故で不通区間となっている常磐線竜田〜原ノ町間について、水戸支社はプレス発表で、小高〜原ノ町間は16年春までに、浪江〜小高間は遅くとも2年後、竜田・富岡間は3年以内をめどにできるだけ速やかに開通することを目指すと公言しています。また、原発事故による帰還困難区域の富岡〜浪江間は、「除染や異常時の利用者の安全確保策を完了した後の開通」を目標にしているのです。

JR東日本は、住民のいない植葉町に電車を走らせ、乗務員や駅・施設・保線・電力等の労働者、さらには下請け会社の労働者にまで被曝を強制しています。そして、線路を原発に

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三  
発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史  
電話 029・227・6020  
FAX 029・227・6291



小高駅にて、常磐線全線開通に向けたバラスト入替工事(5月25日)

向けて伸ばし、これまでとは比にならない被曝を労働者・利用者に強制しようというのです。動労水戸は、延伸工事の即時中止を要求して追及しました。団交の場では、子どもの甲状腺ガンが100人を超えて多発している事実を突きつけました。会社の回答は「言われてはじめて認識した」「会社はコメントする立場にない」という極めて無責任なものです。そんな程度ですから、放射性物質を体内に取り込むことで重大な健康障害を引き起こす内部被曝についてもまともに答えられず、「国の基準からすれば問題ない」

「国が安全と言っているから大丈夫」と繰り返すだけです。しかし、その「安全」の根拠を全く答えられません。被曝をまともに対象化できない会社が、被曝に対する安全を確保することなど不可能です。

地方切り捨てるJRの「一本7人」のバス代行

JR東日本は常磐線全線開通に向けて今年1月末から竜田〜原ノ町間のバス代行を行っています。これについて会社は「住民ニーズ」や「自治体(地域)の要請」で「内閣府(政府)が開通させた」と説明しています。その利用者を尋ねると、「4月の1か月で900人」平均して1本あたりわずか7人の利用だということです。会社は当然不採算であることも認めました。不採算を理由に地方ローカル線を平然と切り捨てるJR東が、採算度外視で常磐線全線開通にこだわるのは一体どういう訳なのでしょう? しかも「1回乗ることに1.2μSv被曝する」としながら「利用者個人の線量まで会社が管理することとはできない」と「利用者の自己責任」だと言っているのです。補償を打ち切り、帰還と被曝を強制し、「原発事故は過去の出来事で、福島はもう事故前と何も変わりはない」…それ

が政府・東電とその手先であるJR東の論理にほかなりません。どこをどう取ってもおかしいではありませんか!

おかしい事をおかしいと言おう労働組合が必要だ!

7月1日、駅の全面外注化に向けたJR東日本ステーションサービス(JESS)への転籍・出向替えが始まりました。検修・構内業務外注化も次のステップに入り、車掌・運転士の外注化も時間の問題になっています。非正規職化で賃金・労働時間が解体され、増税と年金削減が襲いかかり、戦争法案と徴兵制が用意される。被曝強制とこうした攻撃は一体なのです。

こんなでたらめを許してきた責任は、闘いを放棄した労働組合にあります。JR労働者が命と安全のために労働組合に団結し闘う時、全ての労働者と労働組合が立ち上がりましょう。全ての青年は動労総連合・動労水戸に結集し共に闘おう!



原発労働者は訴える  
労働者を被曝から守る労働組合をつくらう!

国鉄水戸動力車労働組合

【新刊】  
原発労働者は訴える  
頒価400円

「原発の中に闘う労働組合を!!」  
現場労働者の熱い訴えは必読です